

たかさし 史話 71
 新検出の中世在銘石造遺品(三)

今回の新検出石造遺品三基は阿弥陀町阿弥陀の共同墓地にあります。

〔広場北側の弥陀石仏〕

墓地中央広場北側に、二十余りの石仏、石碑等を集めています。その後約五メートルの位置にあります。

竜山石製で下部をセメントで固定しているが、現高五センチ、幅六四センチある石材を使い、五弁の蓮華座上に並座する像高二八センチある定印の弥陀坐を彫っています。像容の左右に次の銘文を刻出しています。

像容(二体)

観應二年

観應二年(一三五一)は南

北朝時代前期の年号です。



広場北の石仏

〔中央広場の弥陀石仏〕

墓地中央広場北側の無縁石塔類を集めてある中にあります。最前列の右から二番目、

竜山石製で左上側を欠失しているが、高さ三一センチ、幅二五センチの石材を使い、蓮華座は無く像高二二・五センチの如来坐像を彫っています。像容の両側に次の銘文を刻出しています。

像容

(欠失)

結果

右側の銘文は摩滅して読めませんが、像容の形状から室町時代中期前半に造られたと思われま。



中央広場の石仏

〔阿弥陀16号墳上石仏〕

東方より阿弥陀共同墓地への元センド道の脇にある阿弥

陀16号墳上にあります。

竜山石製で上部は山形で額を造る板碑形石仏で、下部を欠失しているが直接地中に埋めています。全高一〇四センチ、幅三九センチの石材を使い、半月状でふくらした厚みのある蓮華座上に像高三〇センチある定印の弥陀坐像を彫っています。

像容の下側に次の銘文を刻出しています。

三十三

(欠失)

己

應安二年

(欠失)

酉

応安二年(一三六九)は南
 北朝時代後期の年号です。

右側の銘文で三十三に続く文字は回忌供養と思われる。



16号墳上の石仏

(市史編さん特別執筆者

藤原良夫)